



# 『社交ダンス』とは？

男女がペアで楽曲に合わせて、手を繋いでワールド(組む)したり、離れたり、2人で同じステップを踏んだりと自由に踊るスタイルを『社交ダンス』と言います。

『社交ダンス』はペアダンスとも呼ばれ、男性が女性を先導して(リード)、女性がそれを受け入れて(フォロー)踊るものです。広義では、社交目的ではないスポーツとしての“競技ダンス”や、振り付けにそって踊る“ショーダンス”も『社交ダンス』に含まれます。日本においての『社交ダンス』は、親睦を深めることを目的とするダンス「Sociality Dance (Social Dance)」の誤訳からできた言葉ですが、発祥の地イギリスを始め、オーストラリアにおいては「Ballroom Dance」と呼ばれています。

## 『社交ダンス』の歴史

『社交ダンス』の起源はヨーロッパの民衆によって踊られていたダンスと言われています。それが後に、貴族などの身分の高い男女が舞踏会で踊るようになり、18世紀の後半、『社交ダンス』が誕生しました。一部の者から反発を受け、何度か禁止となるものの、典礼儀式などで取り入れられることで上品化されていきました。『社交ダンス』が日本に導入された時期は明治時代のことです。鹿鳴館での外交政策の1つとして行われたのが始まりで、民衆に広まり始めたのは戦後のことです。



# なぜパースで『社交ダンス』？

社交の機会が多いオーストラリアだからこそ、『社交ダンス』を始めよう！

## オーストラリアのダンス事情

オーストラリアでは、『社交ダンス』を公共の場で踊る機会が多いため、“競技ダンス”としての『社交ダンス』ではなく、どこに行っても踊れるステップから学ぶ傾向があり、ダンス教室では基本的なステップから教わることができます。またオーストラリアにおいては、女性をエスコートする文化や、結婚式で踊られるファースト・ダンスの存在、といったことから『社交ダンス』が常に生活に根ざしています。

## エスコートの文化

欧米では基本となるエスコートやレディファースト。日本ではまだまだ浸透していないこのエスコートですが、ここオーストラリアでも、当然イギリスからの影響を大いに受けているので、エスコートは大切となります。『社交ダンス』にも、男性が女性をエスコートするという礼儀作法が存在します。『社交ダンス』は、紳士のスポーツと言われ、上手下手よりも思いやりや優しさが必要となってきます。男性は女性の手を取り、踊る場所までリードして行きます。パーティでは、ダンスに誘う際も基本的に男性から女性を誘い、踊り終わった際も席まで女性を送っていくのが男性の役目となります。つまり、『社交ダンス』はエスコートの文化と切り離しては考えられないものなのです。

## ファースト・ダンスの存在

欧米では、結婚式後に行われるレセプション(披露宴)にて、新郎新婦が結婚後初めて一緒に踊るそのダンスをファースト・ダンスと呼びます。日本には馴染みのない文化の一つですが、披露宴はダンス・パーティになることが多く、そのパーティの最初と最後に新郎新婦のみがゲストの前でダンス(『社交ダンス』)を披露します。ファースト・ダンスのために新郎新婦は事前にダンス教室に通ったりすることもあります。

## どこでも練習できる？

『社交ダンス』は、1畳分の場所があれば練習ができる、と言われています。また、ゴルフ場でもパターがあれば両肩で担ぐだけで、上半身のみ基本姿勢のできあがり。

## 姿勢が良くなる？

『社交ダンス』は胸を張り、背筋を伸ばしながら踊るため、自然と姿勢が良くなります。猫背が治る人も実際にいるとか…！

## 衣装は？

競技においての『社交ダンス』の衣装は、モダンダンス(P11参照)では男性が燕尾服、女性はドレス、ラテンダンス(P11参照)では男女共に自由ですが、女性は肌が大胆に露出されている衣装を着ていることが多く見られます。